

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年9月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100373		
法人名	(有) 緑の丘		
事業所名	グループホーム こちどり		
所在地	富山市月岡町4丁目159-2		
自己評価作成日	平成30年8月5日	評価結果市町村受理日	平成30年9月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

思いやりと微笑みと優しさを理念とし、自然を身近に感じながら生活できるよう、地域の行事にも積極的に参加し関わっていけるようにしています。利用者様・職員共に感謝の言葉を添え、共に支えながら生活する事を心掛けています

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者一人ひとりの意向を尊重し、適切な言葉がけと優しい対応に留意しながら、お花や緑の木々の中で、利用者が自信と生きがいを持って暮らせるよう支援している。家族の協力のもと、入居前の生活歴や環境などを把握し、入居後の個別支援に活かしている。また、保育園児との交流や地域のバーベキュー行事への参加など、色々な年代の人達と楽しく交流している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

グループホーム こちどり

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りを利用し理念の確認を行い、職員間で共有・実践できるように努めている	玄関などに理念を掲示し、申し送り時に、理念を念頭に置いてケアにあたることを確認している。また、業務終了後は、理念に沿った支援が出来たかを振り返り、理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園・保育所との定期的な交流、小学校への行事の参加、地域の行事の参加や展覧会への作品出展、買い物を通して交流ができるように努めている	地域の保育所や幼稚園、小学校と定期的に行き来する関係をつくっている。また、バーベキューなど地域行事に参加したり、福祉系の短大生がお菓子作りに来てくれるなど、様々な年代の人達と楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への行事はご利用者も一緒に参加したり、事業所にて勉強会や避難訓練など行う際には声をかけている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者をはじめ、ご家族・町内の方・民生委員・地域包括支援センター・富山市介護保険課職員の方が参加できるようにし、意見をサービスの向上に活かすようにしている	地域や事業所の行事に合わせて開催するなど、地域の人達や家族が参加しやすいよう配慮している。また、利用者も参加し、今後の行事や受講した研修内容などについて提案や意見をもらっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課などとは随時連絡を取り、必要時には電話や面談にて助言をいただいている。介護相談員は設立当初より受入れている。また、事業所での取り組み・問題点を報告している	書類などは担当者に直接提出し、合わせて介護制度に関する疑問点を聞くなど、市との連携に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、どのようなことが拘束になるのかについて理解を深めるようにしている。センサーの使用や出入口の施錠はご利用者の安全確保のためやむを得ずすることがあるが、抑制にあたることを職員全員理解している。また、ご家族にも事情を説明している	課題としていたマニュアルの見直しに取り組み、身体拘束による弊害などについて職員の理解を深めている。また、身体拘束や虐待につながる恐れがないか、日々のケアの中で、利用者の状態（あざや傷など）を確認し、抑制のない支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道や研修等にて話があった場合には事例として申し送りの際話をするようにしている。また、入浴やトイレ誘導時・更衣時に全身観察を行いあざや傷がないか確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を利用しているご利用者がいるため、制度については今後も理解を深めていきたい。また、今後も勉強をしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が理解と納得をしていただけよう話し合いの機会を十分に持つように努めている。疑問は随時対応している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情マニュアルを作成し、苦情届を玄関に設置している。ご利用者には小さな不満から対処できるような心がけ、ご家族には面会に来られた際に必ず声をかけるようにしている	苦情に至る前の段階で、利用者や家族の思いや要望を聞き取り、事業所の運営に取り込むよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や申し送りを利用して職員の要望や提案を聞き改善を考へるようにしている	職員が気持ちよく業務に携わることができるよう、管理者は、日頃から職員一人ひとりの話に耳を傾け、必要な事案については代表者が個別に面談し、意見などを事業所の運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に職員の話聞き、家庭状況や心身の状態を把握するように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は掲示し、希望があった研修には参加できるようにしている。また、スキルアップの応援として勤務等については最大限に配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修への参加などを通じて交流を深め、サービスの向上になるよう努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはマンツーマンでゆっくり話をする時間を持ち、ご利用者の話を聞くことで不安が軽減され安心できるよう努めている。また、入居前にご家族からセンター方式などで情報をもっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・面談・相談には柔軟に対応し、ご家族の方が初期の段階から気軽に何でも相談できるよう努め信頼関係を築くように努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とした支援をご家族と一緒に見極め、必要であれば他のパンフレットや情報を伝えている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者ができることを見極め声掛けをして家事を一緒にしたり、役割や楽しみを持って生活していただけるよう心掛けている			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際にはホームでの様子を必ず伝えるようにし、ご家族の思いを聴くようにしている。なかなか面会に来ることが出来ないご家族の方にはホーム便りの郵送、電話などで対応している			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん親戚や兄弟の方の訪問がある。電話や手紙の希望があれば随時対応しているが、ご家族が希望されないケースもあるため柔軟に対応している	友人や知人の訪問があれば、受け入れている。また、スーパーでの買い物や馴染みの美容室でのカットなど、馴染みの関係が継続できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者同士お互いに部屋を行き来したり、一緒にレクリエーションを楽しんでいる。これからご利用者同士が話をできる機会を設けるようにしていきたい		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても退去後の様子をご家族からうかがったり、直接訪問させていただいている。その際ご家族から相談があれば対応している		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には担当職員がご利用者の思いや意見を必ず聞き反映している。意思表示が困難な場合にはご家族や他の職員からの意見を聞き、本人の思いに近づくことが出来るよう努めている	利用者にとってわかりやすい言葉を選んで、思いや意向を聞くよう心がけている。また、利用者の生き生きとした表情や少し不安げな顔色などに留意し、内に秘めた思いに辿り着けるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際ご家族の方にセンター方式の記入にご協力いただき、その方の生活歴や馴染みの暮らしを職員間で共有するようにしている。会話の中から聞き取りをしたり、必要であればご家族に入居前の様子をうかがっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を作成し、1日の状態や動きを記録している。記入した記録をみて申し送りを行うことにより把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい生活が送れるようにご利用者・ご家族の希望を取り入れた介護計画にしている。課題があった場合には随時申し送りなどで検討・実施できるようにしている	利用者ごとに担当制を採り、職員は、自主性を持って介護計画作成に取り組んでいる。利用者の状況や症状などに留意しながら、本人や家族の要望をどう取り入れるかを職員間で話し合っ、現状に見合った介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の変化や会話・行動・ケアプランの評価を記入している。変化が見られた場合にはモニタリングやケアプランの見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族から希望があった場合には柔軟に対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や学校行事、ボランティア、介護相談員の方に話をしてもらっている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月内科・心療内科のかかりつけ医の往診がある。入居前と同じかかりつけを希望される方には引き続き利用できるようにしている。希望時には歯科医往診も対応している	かかりつけ医を継続できることや内科医と心療内科医による訪問診療体制を説明し、利用者や家族に決めてもらっている。訪問診療時には、日頃の状態を丁寧に説明し、また、診察結果を家族に知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師はいない。そのため主治医との連携を密にとり指示を仰ぎ適切な対応を取るようになっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の状態についてはかかりつけ医と連絡を密にし、早急な対応ができるようになっている。入院先にサマリーなどの情報提供を行い、入院中には病院スタッフやご家族と連絡を取り情報交換に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針としてターミナルについては対応しない事としているが可能な限り今までの生活を継続していくことが出来るよう主治医・ご家族と連携を取り対応するようになっている	医療的な処置には対応できないが、可能な限り事業所での暮らしを支援することを日頃から家族に説明し了解を得ている。次のことを考える時期がくれば家族や医師と相談を重ね、今後の方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と連携を取り急変時の対応について学ぶようになっている。緊急時の対応について職員の不安を軽減できるよう救命講習を受講している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回通報・避難訓練を行っている。消防署員が立ち会った際には地震・水害等災害について話を聞き職員の不安に対処するようになっている。備蓄も行っている	火災については、通報訓練や誘導訓練を行っている。水害については、事業所が高台に位置することから、危険は少ないことを確認しているが、いずれの災害にも備えて、手回しラジオ、食糧などを準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を尊重し、その方に応じた声掛けを心掛けている。トイレの声掛けなど耳元でするようにしたりなどプライバシーを損ねないようにしている	一人ひとりが、自信と生きがいを持って暮らせるよう、職員は、微笑みを絶やさず、敬意をもって接するよう努めている。また、利用者のプライバシーに関わることを話すときには、細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物やバイキングなど種類や温かさなど選んでもらうようにしているなど、なるべく日常でも自己決定ができるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなど実施しているが、拒否があれば無理に勧めていない。ご利用者のペースや希望に合わせた支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年3~4回床屋さんに来てもらっている。希望時には職員の送迎で美容院にてカット・毛染め・パーマができる。また、馴染みの美容院へ行かれる方もいる		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配・下膳、お菓子作りなど行い職への楽しみが増えるようにしている。季節の食材で漬物をつけてもらったり、外食やお弁当を持って公園など行っている。茶碗拭きを職員と一緒にしている	季節の食材を使った献立を工夫している。職員と一緒にスーパーに買い物に行き、カートを押しながら食材を選んでもらったり、季節の野菜の浅漬作りなど、皆で食事を楽しめるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	富山市が推奨している水飲み運動の1300ml/日を目標にしている。状態に合わせて食べられるものの提供や、主治医と連携を取り高エネルギー栄養剤等取り入れる場合もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。ご利用者に合った口腔ケアを行っている。また、口腔体操を取り入れ誤嚥性肺炎の予防に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者の個々の状態にあった排泄間隔など把握し、その方に合った時間にトイレでの排泄ができるよう誘導を行っている	介助の仕方によっては、利用者の心を傷つけてしまうことに留意し、配慮を心がけた言葉かけに努めている。また、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあった排便間隔を把握し、往診時主治医へ報告している。牛乳などの乳製品や腹部のマッサージなど工夫をしている。主治医と連携を取りながら適宜整腸剤や下剤・坐薬を使用することがある		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日と時間は決まっているが、その時間内でご利用者の希望する順番に入らせていただけるようにしている。拒否された場合は無理強いせず清拭・更衣を勧めている	入浴は、無理なく勧め、心地良さを感じてもらえるよう湯温や時間など、利用者の希望に沿うよう支援している。また、気心の知れた者同士で背中を流し合うなど、入浴が楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし良い睡眠がとれるように努めている。昼食後は休息の時間を設けているが、しない方には個々に合った過ごし方をしてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬剤師がおり、薬を処方してもらう上で使用上の注意や説明があるため記録に残したり、申し送りで共有している。内服後に変化があった場合には主治医へ報告し指示を仰ぐ		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者・ご家族からの情報やセンター方式にて生活歴を把握し、ホームでの生活に生かせるように、また、継続できるようにすることで張りのある生活を送ることが出来るよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の状況に合わせて散歩に出たり日光浴ができるようにしている。買い物に職員と一緒に行き食材を選んでもらったりしている	気分転換を兼ねて、ポーチに出て、お茶や歌を歌って、楽しいひとときを過ごしている。また、事業所前の公園の散歩や、スーパーでの買い物のほか、近くの保育園や幼稚園に出かけ子どもたちと交流したり、回転すし屋で新鮮なお寿司を味わうなど、楽しみごとの外出の機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご利用者はお金を所持していない。希望にて高額ではないお金をご利用者・ご家族にリスクを話したうえで手元に持っておられる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の方にご家族からメッセージを書いてもらうよう依頼することがある。希望があれば電話・手紙いつでも対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物をご利用者と一緒に作ったり、花を飾ったりしている。居室には温度計を設置し、定時に温・湿度の測定を行い快適に過ごしていただくよう空調管理している	季節ごとにお花を生けたり、七夕など時期ごとに皆で作った作品を飾るなど、季節感を取り入れた和やかな雰囲気をつくっている。また、温度や湿度、照明の明るさなどは利用者に合わせ、利用者の様子を見ながら、こまめに調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室のため一人になれる場所がある。ソファや和室もあり好きな場所で過ごしていただいている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際自宅で使っておられたものを持って来てほしいと依頼している。自室には自身の作品やご家族との写真や絵手紙等飾っている	入居間もない時期、だいぶ慣れた頃など、利用者の入居期間などに配慮し、本人が事業所での暮らしに馴染めるよう、使い慣れた物などを持参してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名前やトイレなど主要なところにはわかりやすいよう表示している		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム こちどり
 作成日 平成30年 9月15日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火事・地震だけでなく地震・水害・雪害等の自然災害に対する対策について検討していく必要がある	避難訓練の際に災害を想定した訓練・備蓄場所の確認。事例を通して対処方法を学ぶ	備蓄の整備・確認。備蓄リストの作成。 水道・電気が止まった場合の対策	12ヶ月
2	13	忙しく過ぎていく中、相手を不快と感じさせてしまうことを言ってしまうことがある。気持ち良く利用者・職員同士が過ごす事ができる関係作りをする	言われてうれしい言葉をお互いに声がけする。気持ち良い言葉・感謝の言葉・思いやりの言葉をかけ合うことにより仕事の質を上げる	言われてうれしい言葉。感謝の言葉のアンケートをとり日常の業務に取り入れる。実施後は気持ちや仕事にどのような変化があったかアンケートをとり生かす	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。